

1月 給食だより

宇部市立川上小学校
宇部市立川上中学校

「いただきます」「ごちそうさま」の意味を知ろう!

食事をする前の「いただきます」と食事が終わった後の「ごちそうさま」というあいさつ、きちんと言えてますか。その言葉の意味を知り、毎回、心を込めて言えるようになるといいですね。

大切なものを「頂く」



「いただきます」の「いただく」は、「食べる」や「もらう」のていねいな言い方ですね。漢字では、「頂く」と書きます。“頂”は“山のてっぺん”、“頭の上”を意味する字です。昔の人は、大切なものをもらったときに、感謝の気持ちを表すために、もらったものを頭の上にかかげていたことから生まれた言葉だと考えられています。

命をいただく



私たちがいただく食べ物はそれでもとをたどれば生き物です。食べ物となる動物や植物にも大切な命があります。「いただきます」というあいさつには、食事をできることへの感謝の気持ちとともに、食べ物となったすべての命に、「ありがとう、感謝していただきます」という言葉もあるのです。

人々のご苦労に



「ごちそうさま」を漢字で書くと、「御馳走様」となります。「馳走」には「かけまわる」という意味があります。「ごちそうさま」というあいさつには汗を流して食べ物を集め、まるでかけまわるようにして食事の用意をしてくださった人たちのご苦労をねぎらい、感謝する気持ちが込められています。

学校給食週間

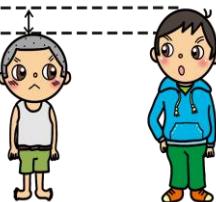
1月24日は給食記念日です。

明治22年、山形県鶴岡市でお弁当をもってこられない子ども達のために用意された「おにぎりと漬物」が学校給食の始まりといわれています。それから日本全国に広まりましたが、第2次世界大戦で食糧不足になり、給食は中止されました。

昭和20(1945)年、戦争が終ったばかりの日本では食料が不足し、栄養不足の子ども達がたくさんいました。給食も戦争で中断されたままでした。



そのころの小学校6年生は、今の小学4年生くらいの大きさだったといいます。



この日本の様子を見て、外国から食べ物の援助がたくさん送られてきました。こうして昭和21(1946)年12月24日、学校給食がふたたび始まりました。



12月24日は学校が冬休みなので、1ヶ月遅らせた1月24日を「給食記念日」とし、そこから1週間を「全国学校給食週間」と決めました。



学校給食は戦後、成長期にある児童生徒の健康な体づくりに栄養面でとくに大きな役割を果たしてきました。現在はさらに子どもたちの生きる力を育む食育の観点から、生涯、健康で充実した生活を送るための望ましい食生活の基礎・基本を身に付け、感謝の心や社会性を養い、伝統的な食文化の継承や国際理解なども含めた7つの役割があります。

給食には長い歴史がありますが、いつの時代も子どもたちのすこやかな成長を願ってつくられてきました。1月26日から30日は学校給食週間です。この機会に、給食にかかる多くの人々の気持ちや食べ物の大切さを改めて見直し、感謝の気持ちをもって食事ができる人になってほしいと思います。